

令和8年2月17日

京丹波町教育委員会
教育長 松本 和久 様

和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会
会長 井戸 仁

和知地区京丹波町立小中学校のあり方について(答申)

令和7年7月17日付け7京丹教学第591号で諮問のありました和知地区京丹波町立小中学校のあり方について答申します。

本検討委員会では、和知地区の児童・生徒の学びを保障するための望ましい学校のあり方について、6回にわたり慎重かつ活発な議論を重ねてきました。

また、保護者や地域の方を対象とした説明会を開催し、本検討委員会における中間的な評価について報告を行うとともに、アンケート調査を実施し、その回答結果も踏まえ、評価分析を行ってきました。

ここに意見を付して答申します。

記

1 和知地区京丹波町立小中学校のあり方について

和知地区における児童・生徒数の減少が進む中、平成28年度から和知小学校と和知中学校が取り組まれてきた小中連携事業の成果や、伝統文化をはじめ和知地域の様々な教育資源を活かした教育実践の実績、また、保護者等を対象としたアンケート調査の結果等を踏まえ、本検討委員会では、学校の小規模化に伴う課題の低減を図りつつ、今後においても、これまでの和知ならではの豊かな学びを継承することが望ましいと考えられることから、小中一貫教育校への移行を目指すことが望ましいと判断しました。

なお、小中一貫教育校への移行を進めるにあたっては、児童・生徒の教育条件の改善の観点を中心に据え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために、以下を考慮して進めることが望ましいと考えます。

- (1) 義務教育9年間の学びを系統立てたものとし、児童・生徒の学習意欲を高め、確かな学力向上を図るための取組を推進すること
- (2) 小中学校の9年間にとどまらず、こども園からの円滑な接続の充実を図ること
- (3) 継続的な指導体制の構築に向け、合同研修を実施するなど、教職員のさらなる連携強化を図ること

- (4) 学校の小規模化に伴い、課題とされる児童・生徒の人間関係の固定化や集団での学びの困難さを克服するため、次の機会の確保・充実等を図ること
- ① 小中連携や小中連携など、他校との合同学習の機会の確保及び充実を図ること
 - ② 中学校での学習を充実させるため、町内の他の中学校との授業・部活動や行事での交流の機会を日常的に実施するなど、中学校間の連携強化を図ること
 - ③ 町内3中学校で進めている拠点校部活動制度の一層の充実や全国的に進む部活動の地域展開のあり方も含めた活動の保障を確保すること
 - ④ 上記①から③の実現のため必要となる移動手段(運転手及びスクールバス等)を確保すること
- (5) 校舎については、小中一貫教育校へ移行した場合も、現在の和知小学校・和知中学校それぞれの施設の活用が現実的であり、施設分離型の施設形態となることが見込まれることから、上記(4)同様に、より連携した学びの充実を図るためにも、学校間の連携・交流に係る移動手段を確保すること。また、将来的な校舎のあり方については、児童・生徒の教育環境の維持・向上の観点から、施設一体型への移行も含め、望ましい施設形態について引き続き検討すること
- (6) 和知小学校地域教育協議会(うらら会)や地域コーディネーターによる支援が、小学校だけでなく、中学校までの9年間を通じたものとなるよう児童・生徒の学びを深めるための活動の機会を確保すること
- (7) 次のような和知地区ならではの特色ある学びをさらに推進すること
- ① 和知中学校が取り組む「和知ゼミ」など、町や地元企業等と連携した地域に根差した探究的な学びの充実
 - ② 和知太鼓や和知人形浄瑠璃などの伝統文化をより深く学ぶ機会の確保
 - ③ カヌーを活用した学習を継続的に実施する機会の確保
- (8) 魅力ある教育課程を創造すること
- ① 和知中学校においては、旧和知町で実施されたニュージーランドとの国際交流事業の基盤があり、生徒の語学力の水準が高いことから、特に、児童・生徒を含めた英語力の向上に特化した教育課程を創造すること。その際には、外国語指導助手(ALT)の常勤雇用や企業のプログラムの活用など、より効果的な手法の活用についても検討すること
 - ② 2年間のリーディング DX スクール指定校としての実績を基盤に、情報活用能力と探究的な学びを連動させ、児童・生徒が協働して最適解を導く力や自らの考えを論理的に発信する表現力等、予測困難な時代を切り拓く資質・能力を育む教育課程を創造すること
 - ③ 小中一貫教育の強みを活かし、小学校段階からの職業観の醸成や、中学校での職場体験学習を深化させるなど、児童・生徒の発達段階に応じた一貫性のあるキャリア形成支援を行うこと。また地域の伝統文化や産業の学習を通じ、大人たちの生き方に触れることで、郷土への愛着と誇りを持ちつつ広い視野で自らの将来を描ける機会を創出すること

2 小中一貫教育校への移行時期について

和知地区における児童・生徒の豊かな学びを保障するためには、現在の小中連携事業の成果等を活用することが最も効果的であると考えられることから、令和8年度中に9年間を見据えた教育課程の確立等を進め、出来るだけ早期に移行することが望ましいと考えます。

3 将来を見据えた取組について

岐阜県山県市の「山県学園構想」は、「市全体を一つの学校」として連携させることで、小集団でのきめ細かな指導と大集団での切磋琢磨する学習を可能にする新たな義務教育の仕組みであり、本町においても、これらを参考に、学校連携のあり方について検討されたいと考えます。

4 おわりに

この答申を踏まえ、和知地区の子どもたちの未来のため、教育委員会部局と町長部局が一体となって取組を進めていただき、小中一貫教育校への移行後も、保護者や地域の皆さんが、主体的に学校づくりに関わっていただけるような仕掛けや環境整備を求めます。

また、学校のあり方については、積極的に保護者や地域の皆さんへ情報提供を行い、不安等の解消に努めるとともに、これからの和知地域の学校のあり方、地域に学校があることの意義や役割を考える機会の創出に努めていただきたいと思います。

<参考資料>

- (1) 和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会の開催状況等について
- (2) 和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会 委員名簿
- (3) 諮問書(写)
- (4) 和知小学校の今後の在り方に関する意見の上申
- (5) 和知中学校の今後の在り方に関する意見の上申
- (6) 和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会の検討経過等について
 - ①京丹波町の小・中学校の児童・生徒数の推移
 - ②和知地区の小・中学校の児童・生徒数の推移
 - ③和知小学校・和知中学校連携教育推進事業の状況について
 - ④和知地区の小中学校のあり方を検討するに至った経過について
 - ⑤和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会に対する諮問内容について
 - ⑥検討委員会の主な協議内容及び意見等について
 - (1) 小中一貫校を採用した場合について
 - (2) 和知中学校を統合した場合について
 - (3) 和知小学校及び和知中学校をそれぞれ他校に統合した場合について
 - (4) 岐阜県山県市の取組について
 - ⑦検討委員会の中間的な評価について(第4回検討委員会開催時点の評価)
 - ⑧保護者等説明会の結果について
 - ⑨保護者等説明会における主な意見等について
 - (1) 説明会での意見等
 - (2) アンケート回答一覧
 - ⑩検討委員会の最終の評価について

和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会の開催状況等について

開催日等	主な検討内容等
第1回検討委員会 令和7年7月17日	①和知地区の小中学校のあり方を検討するに至ったこれまでの経緯について ②京丹波町と和知地区の出生数及び児童生徒数の推移について ③現在取り組んでいる和知小学校と和知中学校の小中連携の取組内容について ④文部科学省の資料に基づく小中一貫教育制度等について ⑤和知地域のバス通学の現状等について ⑥京丹波町立中学校で導入を検討している部活動拠点方式について
第2回検討委員会 令和7年8月22日	①近隣の義務教育学校(9年間)の児童生徒の教育環境について ②近隣(亀岡市、綾部市、福知山市)の小中一貫校の状況について ③和知地区における地域資源について ④交流協議 <ワークショップ> テーマ:「子どもの学びと地域、それぞれのメリット・デメリット(課題は何か)」について ・考え得る小学校中学校の学びの形態を3つに分類 ①小中一貫校を採用した場合 ②和知中学校を統合した場合 ③和知小学校及び和知中学校をそれぞれ他校に統合した場合 ・それぞれ学びや体験はどうか、通学はどうか、地域との関わりはどうかなどメリット、デメリットについて検討
第3回検討委員会 令和7年9月25日	①京丹波町立中学校の部活動拠点方式導入におけるアンケート結果について ②新たな義務教育の仕組み「山県学園構想(岐阜県)」について
第4回検討委員会 令和7年10月22日	①京都府内の他市町村の部活動拠点校方式の状況について ②国による「令和の日本型学校教育」を推進する学校の適正規模・適正配置の在り方に関する調査研究協力者会議」で配布された資料など、学校の在り方を巡る国資料について ③和知中学校におけるキャリア教育の概要について ④交流協議 <ワークショップ> テーマ:「中学校が統合した場合、和知の小中学生にどのような効果や影響が考えられるか」 ・統合によるメリット、デメリット、和知地域の子どもを育てているものは何か、大切にしたい環境などについて検討

開催日等	主な検討内容等
保護者等説明会 令和7年11月27日	【主な説明内容等】 ①京丹波町及び和知地区の小・中学校の児童・生徒数の推移 ②和知小学校・和知中学校連携教育推進事業 ③和知地区の小中学校のあり方を検討するに至った経過 ④和知地区の小中学校のあり方検討委員会の設置 ⑤和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会の構成 ⑥あり方検討委員会の検討経過等 ⑦あり方検討委員会における主な協議内容 ・小中一貫校を採用した場合についての主な意見 ・和知中学校を統合した場合についての主な意見 ・和知小学校及び和知中学校をそれぞれ他校に統合した場合についての 主な意見 ⑧あり方検討委員会の現時点での中間的な評価
第5回検討委員会 令和7年12月18日	①保護者等説明会の報告について ②今後の方向性について(交流協議 <ワークショップ>) テーマ:「小中一貫校を採用した場合の検討すべき事項について」 ・施設の形態、和知ならではの特色ある学びや取組、小規模校への 課題の対応、保護者・地域との連携(PTA 活動や学校運営協 議会)などについて検討
第6回検討委員会 令和8年2月6日	①和知地区京丹波町立小中学校のあり方にかかる答申(案)について ②今後のスケジュール(案)について

和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会 委員名簿【敬称略】

選出区分	所属等	氏名	検討委員会
学識経験を有する者	京丹波町教育政策アドバイザー (立命館大学大学院教職研究科准教授)	井戸 仁	会長
和知地区小中学校の保護者を代表する者	和知小学校 PTA 副会長	河谷 尚都	
和知地区小中学校の保護者を代表する者	和知中学校 PTA 庶務・会計	原田 美希	
和知地区区長会の代表者	和知地区区長会 副区長	才村 路子	
和知地区学校協働活動に関係する者	京丹波町立和知小学校地域教育協議会(うらら会) 副会長	大田 有次	副会長
伝統文化に関係する者	京丹波町民芸保存会	春田 貢	
公募による町民	公募委員	早川 公雄	
公募による町民	公募委員	川中 愛映	
公募による町民	公募委員	森瀧 ひろ香	



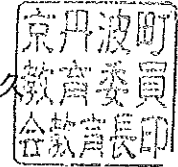
7京丹教学第591号

令和7年7月17日

和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会会長様

京丹波町教育委員会

教育長 松本 和久



諮問書

和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会設置要綱第2条の規定に基づき、次に掲げる事項について、検討のうえ、答申いただきたく諮問します。

記

1 諮問事項

少子化が進行することに対応し、和知の地域の実情をふまえた、児童・生徒の学びを保障するための、和知小学校と和知中学校の望ましい学校のあり方について諮問します。

2 諮問にいたる経過と検討にあたって留意していただきたい事項

令和6年、全国の出生数が68万人余りとなり、少子化が大きな社会課題となっています。本町においても、少子化の進行により、小・中学校の小規模化が一段と進んでいます。こうした状況をふまえ、今後の本町の小・中学校のあり方を検討することが求められています。

このような中、令和7年2月18日に、保護者や地域の代表等で構成されている和知小学校、和知中学校のそれぞれの学校運営協議会から、今後の和知地区における小・中学校のあり方の検討を求める意見書が、京丹波町長と京丹波町教育委員会に提出されました。

和知小学校学校運営協議会の意見書は、「和知小学校と和知中学校の小中一貫教育校の推進を含めた検討」を求めるものでした。他方、和知中学校学校運営協議会からの意見書では、「和知小学校と和知中学校の小中一貫教育校の推進や町内の他の中学校との合同などの幅広い検討」を求めるものとなっています。

これらの意見書の提出を受け、令和7年2月20日に開催しました京丹波町総合教育会議において、和知地区における小・中学校のあり方を検討するための検討委員会の設置を決定するに至りました。なお、あり方の検討にあたっては、小中一貫教育校を含めた検討を行うことについても決定しました。

貴会には、検討にあたり、以下の諸点に留意いただくことをお願いします。

【留意事項】

- ①小・中学校が小規模化していることによる課題点とその改善を図るために必要なこと
- ②和知小学校で進められてきた「地域学校協働事業」の果たしている役割
- ③和知小・中学校で実施している地域の伝統文化を学ぶ取り組みの意義と役割
- ④平成28年度より実施している和知小学校と和知中学校との小中連携事業の成果と課題
- ⑤和知小・中学校が、地域との連携において果たしてきた役割
- ⑥小中一貫教育校の検討にあたっては、今後の児童生徒の在籍見込みに基づく持続可能性

令和7年2月18日

京丹波町長 畠中源一様
京丹波町教育委員会教育長 松本和久様

和知小学校学校運営協議会
会長 堀郁太郎

和知小学校の今後の在り方に関する意見の上申

本協議会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、和知小学校の今後の在り方について、和知小学校と和知中学校の小中一貫教育校の推進を含めて検討をしていただくよう意見を上申いたします。

1. 意見上申に至る背景、課題、経過

- (1) 地域の様々な教育資源を活かした和知ならではの教育実践を積み重ねることで、豊かな教育活動が進められてきた。
- (2) 人口減少、少子化による学校の小規模化の進行
- (3) 平成28年度より、和知小学校と和知中学校において、小中9年間を見通した小中連携の在り方について(小中一貫教育も含めて)検討・取組を進めてきた。

2. この間の主な取組状況

- (1) 平成28年度から令和4年度まで
 - ① 小中合同研修会
 - ② 交流を通じた小中連携
 - ③ 学習(授業)を通じた小中連携
- (2) 令和5年度に新たに行った取組
 - ① 和知小学校・和知中学校連携教育報告会
(主な出席者:町内選出町議会議員、小・中学校の評議員、PTAの代表、
わちこども園園長、教育委員会教育長等)
- (3) 令和6年度に新たに行った取組
 - ① 和知地区区長会での説明
説明内容:「和知小・中学校連携教育について」
 - ② 和知小・中学校スポーツフェスティバルの開催

3. 意見集約の方法

- (1) 学校運営協議会での協議
- (2) 学校説明会を開催し、保護者へ説明
- (3) 学校アンケートによる意見集約

4. 集約した意見の内容

多数の保護者から、小中一貫校への移行について肯定的な意見を得た。しかし、早急に結論を出すのではなく、さらに保護者等の声をよく聞いて進めてほしいとの意見も複数寄せられた。他方で、旧町単位を越えた学校の在り方や学校選択制を望む声も少数ではあるがあった。

以上のことを踏まえ、和知小学校の今後の在り方について、和知小学校と和知中学校の小中一貫教育校の推進を含めて検討をしていただきたいとの結論に至った。

令和7年2月18日

京丹波町長 畠中 源一様
京丹波町教育委員会教育長 松本 和久様

和知中学校学校運営協議会
会長 森 久恒

和知中学校の今後の在り方に関する意見の上申

本協議会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、和知中学校の今後の在り方について、和知小学校と和知中学校の小中一貫教育校の推進や町内の他の中学校との合同など、幅広く検討をしていただくよう意見を上申いたします。

1. 意見上申に至る背景、課題、経過

- (1) 伝統文化をはじめ地域の様々な教育資源を活かした和知ならではの教育実践を積み重ねることで、豊かな教育活動が進められてきた。
- (2) 令和6年度の和知中学校入学生が6名、全校生徒が28名になるなど少子化による学校の小規模化の進行が進んでいる。
- (3) 平成28年度より、和知小学校と和知中学校において、小中9年間を見通した小中連携の在り方について(小中一貫教育も含めて)検討・取組を進めてきた。

2. この間の主な取組状況

- (1) 平成28年度から令和4年度まで
 - ① 職員による小中合同研修会の実施
 - ② 行事や交流を通じた児童・生徒の小中連携
 - ③ 中学校教員(美術・音楽・体育・英語)が小学校に出向いての専門的な授業支援
- (2) 令和5年度に新たに行った取組
 - ① 和知小学校・和知中学校連携教育報告会
(主な出席者:町内選出町議会議員、小・中学校の評議員、PTAの代表、
わちこども園園長、教育委員会教育長等)
- (3) 令和6年度に新たに行った取組
 - ① 和知地区区長会での説明
説明内容:「和知小・中学校連携教育について」
 - ② 和知小・和知中学校合同スポーツフェスティバルの開催

3. 意見集約の方法

(1) 学校運営協議会での協議(6月・12月)

(2) オンラインによる保護者説明会の実施(1月)

校長より、①小中一貫、②他の中学校との合同、③現状維持の3つの方向性について、それぞれのメリット、デメリットについての説明を行った。

(3) 学校アンケート(様式は自由記述式)による意見集約(2月)

4. 集約した意見の内容

- ・保護者からの回答は、12件(全家庭数27)でした。
- ・回答のうち、和知中学校の在り方の検討を求める意見が多数を占め、他の中学校との合同を求める意見と和知小学校との一貫校を求める意見がほぼ同数でした。なお、少数ながら、現状の維持を求める意見もありました。
- ・そのほかの意見としては、今後和知中学校に入学することになる和知小学校や和知こども園の保護者の声を聞いてほしいとの意見もありました。

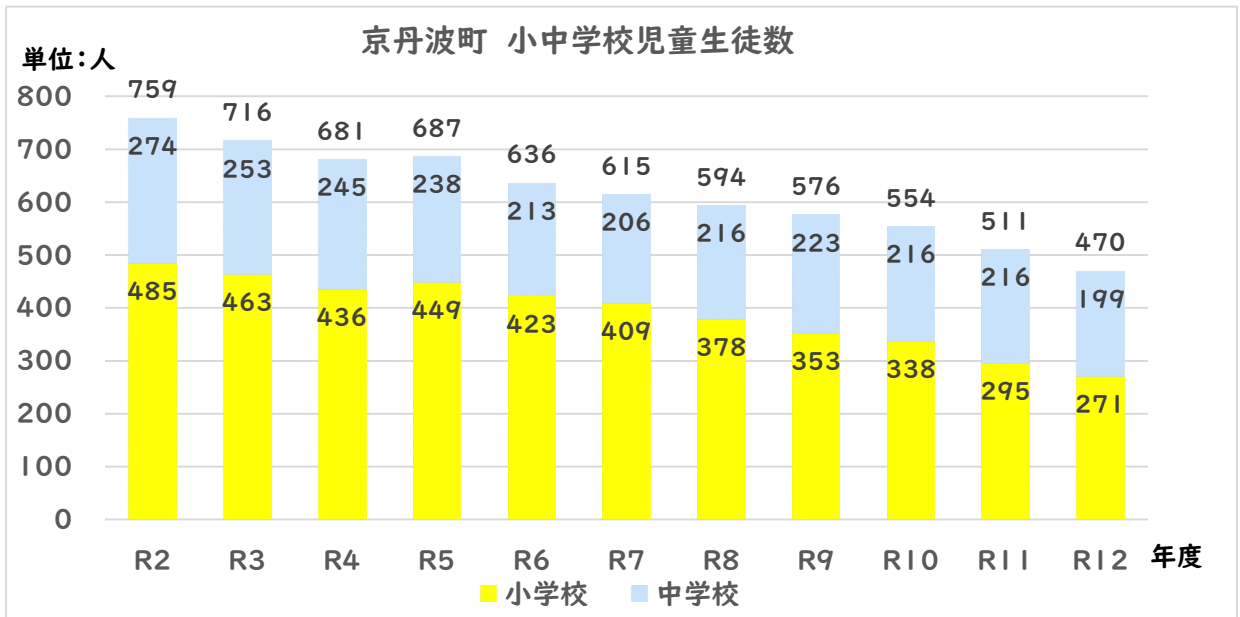
こうしたことから、いずれにしても、今後の和知中学校の在り方を検討してもらいたいというのが、保護者の意向であると考えられます。検討にあたっては、他の中学校との合同と和知小学校との一貫校がほぼ同数であることや、結論を出すために、もう少し時間が必要として現時点では明確な回答が示されていないことに留意していただき、和知地域における学校の在り方を丁寧に検討していただくように要望します。

和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会の検討経過等について

●検討を進めるにあたり、参考とした和知地区の学校を取り巻く状況や教育環境、検討委員会ででの主な検討経過等は次のとおりです。

①京丹波町の小・中学校の児童・生徒数の推移

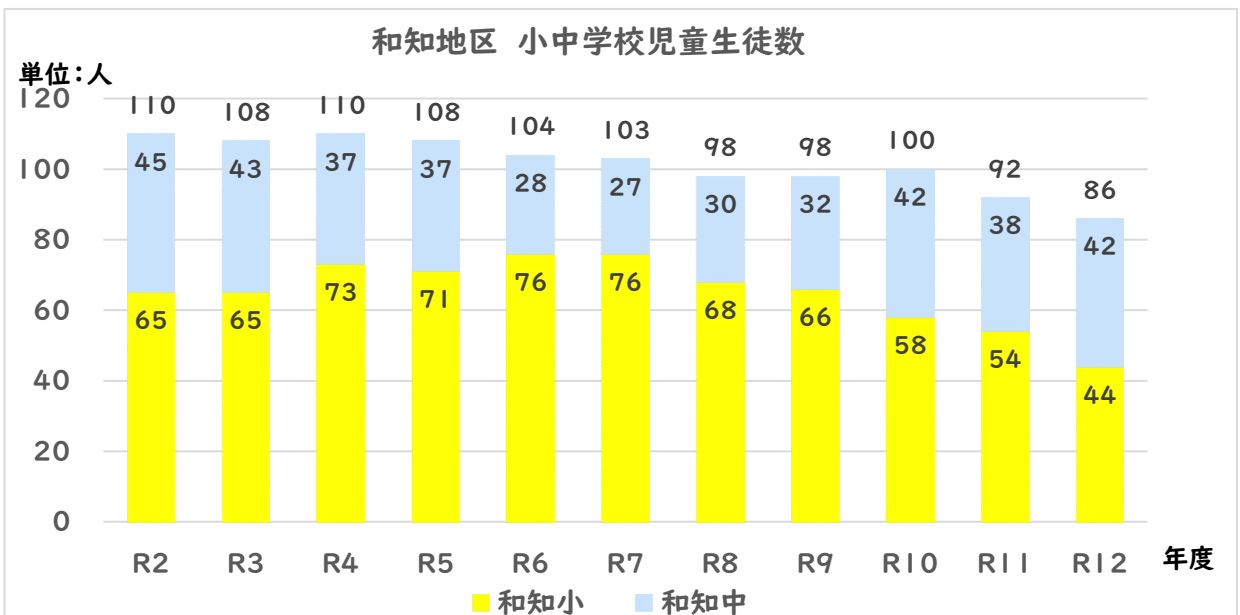
京丹波町の小・中学校の児童・生徒数は、R7年5月1日現在で615人であり、今後も減少することが見込まれます。



※R8年度以降はR6年度の未就学児の人数を元に推計

②和知地区の小・中学校の児童・生徒数の推移

和知地区の小・中学校の児童・生徒数は、R7年5月1日現在で103人であり、今後も緩やかに減少することが見込まれます。



※R8年度以降はR6年度の未就学児の人数を元に推計

③和知小学校・和知中学校における連携教育推進事業の状況について

和知小学校及び和知中学校においては、将来的にも児童・生徒数が減少することを見据え、既に、平成28年度から、連携教育推進事業に取り組まれてきました。

平成28年度からの連携内容等は次のとおりです。

連携事業の開始年度：平成 28 年度～

平成 28 年度の児童・生徒数の状況：和知小学校：93 名 和知中学校：66 名

ねらい【連携推進事業計画報告書より(要約)】

和知地区における児童・生徒数の減少が続く中、集団的な学習活動、部活動等が制限され、適切な教育の保障が困難になると予想される。

このため小中連携を一層進めることにより、中 I ギャップの解消、不登校の未然防止、学力の向上を図るとともに、小中一貫教育の視点に立った今後の和知地区の教育のあり方を考察することが必要。今年度は、下記の 3 点に視点を当てた取組を進めることで、9 年間を見通した小中連携のあり方を見出したい。

<連携内容>

1 平成28年度～令和4年度の取組

- (1) 研修を通した小中連携 小中合同研修会、授業交流会等
- (2) 交流を通した小中連携 小学校：中学校文化祭の鑑賞
中学校：小学校行事への参加、合唱の披露
- (3) 学習（授業）を通した小中連携 英語、美術の出前授業

2 令和5年度の新たな取組

- (1) 和知小学校・和知中学校連携教育報告会

3 令和6年度の新たな取組

- (1) 和知地区区長会での説明
説明内容：「和知小・中学校連携教育について」
- (2) 和知小・中学校スポーツフェスティバルの開催

4 令和7年度の新たな取組

- (1) 小5・小6・中 I 段階における学習指導の充実
 - ・6年理科 中学校教員による専科指導
 - ・5・6年体育 中学校教員と小学校教員による TT 指導
 - ・中 I 数学 中学校教員と小学校教員による TT 指導（TT 指導＝複数教員による指導）
- (2) 和知中学校での5・6年生授業の実施（特別支援学級児童体験学習）

④和知地区の小中学校のあり方を検討するに至った経過等について

和知地区の小中学校のあり方を検討するに至った経過等は次のとおりです。

<学校運営協議会からの意見上申>(令和7年2月18日)

<和知小学校>

『和知小学校と和知中学校の小中一貫教育校の推進を含めた検討を』

- ・小中一貫校への移行について、多数の保護者から肯定的な意見を得た。
- ・早急に結論を出すのではなく、保護者等の声をよく聞いて進めてほしいとの意見が複数あった。
- ・旧町単位を越えた学校の在り方や学校選択制を望む声も少数ではあるがあった。

<和知中学校>

『和知小学校と和知中学校の小中一貫教育校の推進や町内の他の中学校との合同など、幅広い検討を』

- ・他の中学校との合同を求める意見と和知小学校との一貫校を求める意見がほぼ同数であった。
- ・少数ながら、現状の維持を求める意見もあった。
- ・和知小学校やわちこども園の保護者の声を聞いてほしい。



京丹波町総合教育会議において、和知地区における小・中学校のあり方を検討するための検討委員会の設置を決定(令和7年2月20日)

⑤和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会に対する諮問内容について

京丹波町教育委員会からの諮問内容は次のとおりです。

<あり方検討委員会への諮問内容>

少子化が進行することに対応し、和知の地域の実情をふまえた、児童・生徒の学びを保障するための、和知小学校と和知中学校の望ましい学校のあり方について諮問する。

<検討にあたる際の留意事項>

- ①小・中学校が小規模化していることによる課題点とその改善を図るために必要なこと
- ②和知小学校で進められてきた「地域学校協働事業」の果たしている役割
- ③和知小・中学校で実施している地域の伝統文化を学ぶ取り組みの意義と役割
- ④平成28年度より実施している和知小学校と和知中学校との小中連携事業の成果と課題
- ⑤和知小・中学校が、地域との連携において果たしてきた役割
- ⑥小中一貫教育校の検討にあたっては、今後の児童生徒の在籍見込みに基づく持続可能性

⑥検討委員会の主な協議内容及び意見等について

- 検討委員会では、主に考え得る次の3つの学校のあり方を想定し、そのメリット・デメリットについて検討しました。
 - (1)小中一貫校を採用した場合について
 - (2)和知中学校を統合した場合について
 - (3)和知小学校及び和知中学校をそれぞれ他校に統合した場合について
- その他、本町の学校のあり方を検討するうえで、参考となり得る岐阜県山県市の取組についても意見交換を行いました。

(1)小中一貫校を採用した場合についての主な意見

区分	主な意見
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・9年間を通じたカリキュラムを組むことができる。 ・小学校においては、中学校教員の専門的な指導を受けることができる。 ・中学校入学期の不安な時期に、小学校から中学校まで幅広い教員のサポートが得られる。 ・小中連携の取組や伝統文化の継承、地域と連携した取組が継続できる。 ・和知の子は郷土愛、母校への思いが強い。地域との関りの強さがあるからであり、このつながりは今後も残していきたい。 ・PTA活動や組織を見直せるのではないかな。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数できめ細やかであることは良いが、9年間同じメンバーのため、人間関係が固定化するのではないかな。 ・環境が変わらないことで変化に対応する力が育ちにくい。 ・多くの人数の中での学びや刺激が少ない。 ・チーム競技など、ある程度の人数がいることが必要な活動もある。

(2)和知中学校を統合した場合についての主な意見

区分	主な意見
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・他の地域や生徒との関りや交流を持つことができ、新たな刺激、気付きがある。 ・地域行事や文化について、学べる範囲が広がる。 ・クラス替えができる。 ・部活動や人数を要する活動の選択肢が広がり、チームスポーツなどは成り立ちやすい。 ・より幅広い人間関係ができる。

区分	主な意見
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・通学距離の負担が大きく、親の送迎の負担も増える。帰宅時間も遅くなる。 ・小中連携(音楽・図工・体育・外国語・数学・理科)の取組の継続が難しくなる。 ・伝統文化(和知太鼓、和知人形浄瑠璃)の取組の継続が難しくなる。 ・地域の方々との関わり合いが減少する。(希薄になる) ・地域から学校がなくなるという合意形成がまだできていない。 ・中学校を統合するとそれぞれの特色が失われるのではないか。 ・中学生の多感な時期に、小さいエリアから大きいエリアに行ってなじめるか心配
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・統合をしなくても、集まる機会を増やすことで、集団の機会も得られるのではないか。(毎日でなくても良いので、例えば、蒲生野中学校に行ったりする機会があれば良いのではないか。)

(3) 和知小学校及び和知中学校をそれぞれ他校に統合した場合についての主な意見

区分	主な意見
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの小・中学校が統合すると町内の一体感が出る。 ・クラス替えができる可能性がある。 ・他の地域の刺激により、高校進学時のギャップを減らせるのではないか。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの地区(和知)の特性が失われていくのではないか。 ・通学距離の負担が大きく、親の送迎の負担も増える。帰宅時間も遅くなる。 ・和知地域から学校がなくなり、地域の衰退に繋がりがねない。 ・地域活性化に影を落とす可能性がある。 ・地域の理解を得るのが難しい。工夫が必要 ・小規模校の方が、一人ひとりがリーダーとなり、活躍する場面が多く、子どもの可能性を引き出しやすい。

(4) その他の協議内容及び意見

<岐阜県山県市の取組～『新たな義務教育の仕組み「山県学園構想」』～の紹介内容>

- ・「山県学園構想」は、市内の9小学校、3中学校等を「山県学園」とし、学習内容によってどの学校との合同授業も可能にする仕組み
- ・スクールバスを利用し、児童生徒が行き来する。
- ・学校の統廃合を行わず、小中学校間の連携による合同授業や合同行事を通じて、児童生徒が多様な仲間と出会い、より大きな集団で学ぶ機会を確保
- ・合同授業を複数の教員で担当でき、必要に応じた個別の手厚い指導が可能

<主な意見>

- ・学校が小規模化する和知中学校のデメリット解消として参考になるのではないか。
- ・地域の良さを残しつつ、地域の教育環境を子どもの教育に生かせるのではないか。
- ・各学校の違いを特色として際立たせることができるのではないか。
- ・将来、京丹波町全体でも、丹波・瑞穂・和知のそれぞれの地域の文化を学び体験することに生かせるのではないか。

⑦検討委員会の中間的な評価について

4回にわたり検討委員会を開催した時点での、中間的な評価は次のとおりでした。

(1)これまで進められてきた小中連携、地域連携について

- ・小中連携の取組が学びや成長に大きく寄与しており、今後も生かすことが望ましい。
- ・地域に支えられ豊かな体験や学びができており、和知の伝統芸能、伝統文化の継承にもつながっている。

(2)中学校が小規模化していることが及ぼす影響について

- ・和知中学校の小規模化が、人間関係の固定化や多様な学びや活動の制約となっている。
- ・和知中学校の統合も考えられるが、現行の和知中学校を維持したうえで、集団での学びや活動ができるよう、他の中学校との共同学習を進めることも考えられる。
- ・学校の小規模化はデメリットもあるが、もう一方で、きめ細やかな指導支援が可能となる。一人ひとりに役割があり、自立や成長につながっていることにも留意する必要がある。

(3)小・中学校の統合について

- ・学校の統合は、一定規模が確保できる点においてはメリットがある。
- ・一方で、通学範囲が広がり児童・生徒や保護者の負担が大きくなる。
- ・地域との関係性の希薄化による学びのメリットの減少が懸念され、地域への影響も懸念される。

(4)他の地域の取組で参考になったことについて

- ・単なる現状維持でもなく、統合でもない、新たな学校のあり方を模索する岐阜県山県市の学園構想は、新たな発想による学校づくりとして参考になるのではないか。

⑧保護者等説明会の結果について

1 開催日時等

- ・日時 令和7年11月27日(木)午後7時30分～9時10分
- ・場所 和知小学校
- ・対象世帯数 102世帯

<内訳:わちこども園:11世帯、和知小学校:40世帯、和知中学校 24世帯、区長27世帯>

- ・保護者等参加者数 会場 17人
オンライン 34人 合計 51人(出席率 50%)
- ・事務局等出席者 検討委員会 井戸会長・大田副会長
教育委員会 松本教育長・岡本次長・四方課長・長尾総括指導主事・野口係長
和知小学校 梅原校長・木村教頭・寺尾教務主任
和知中学校 船越校長・内藤教頭・大瀧教務主任
わちこども園 下村園長

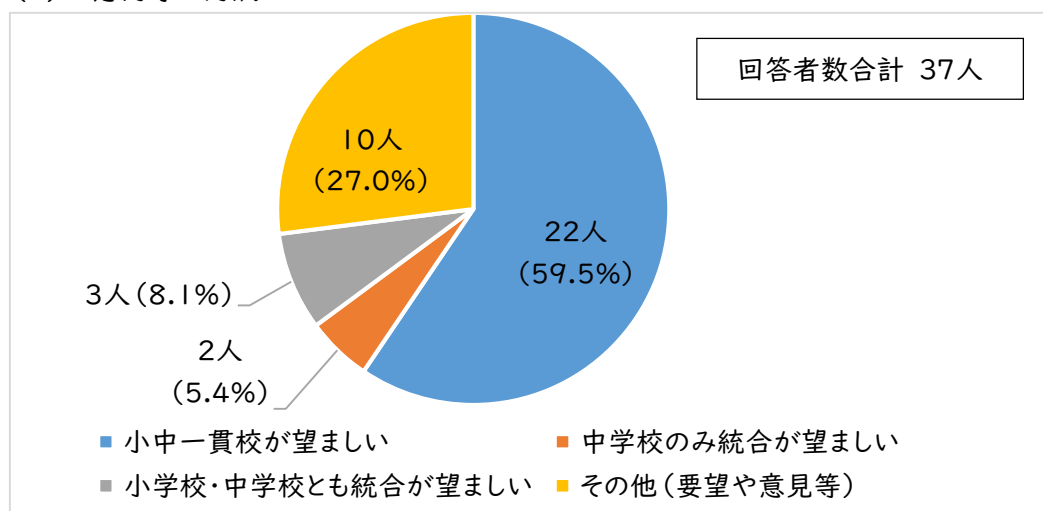
2 保護者等参加者内訳

参加区分	会場参加	オンライン参加	合計	述べ参加人数
わちこども園保護者	1人	—	1人	6人
和知小学校保護者	4人 (兼こども園3人、中学校1人)	29人 (兼中学校4人)	33人	33人
和知中学校保護者	2人 (兼こども園2人)	5人 (区分不明1人含む)	7人	12人
区長	10人	—	10人	10人
合計	17人	34人	51人	—

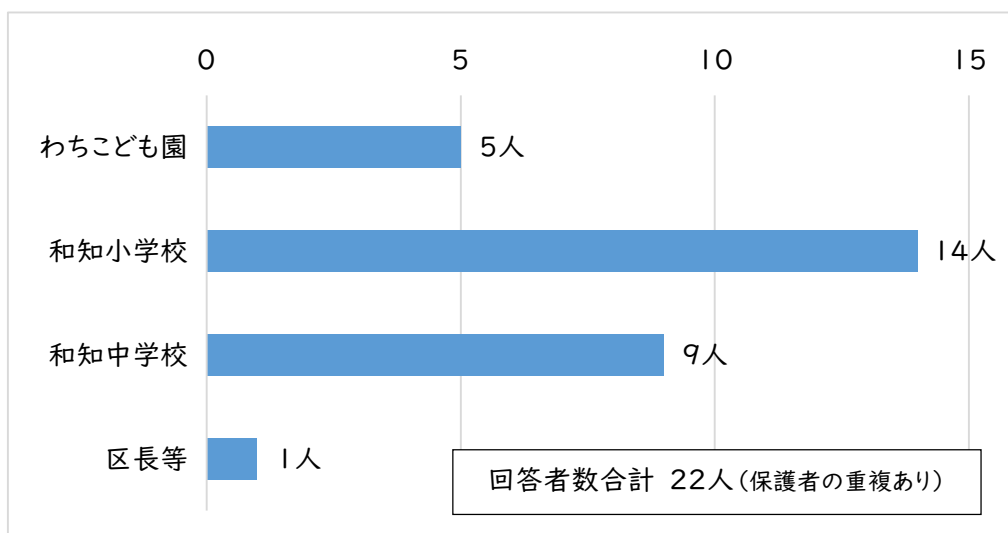
3 保護者等からの主な意見等 別紙⑨(1)(2)のとおり

4 アンケート回答一覧の内訳(記載内容に基づく分類)

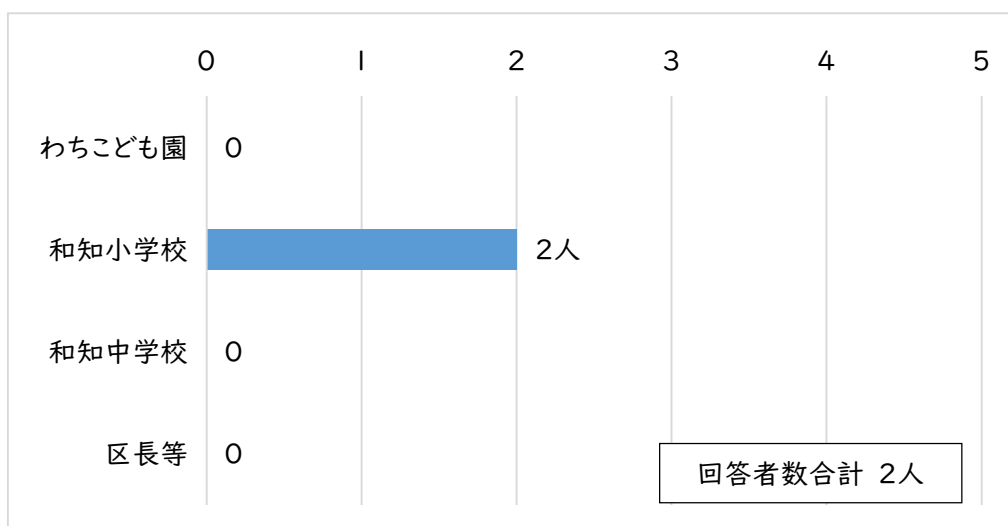
(1) 意向等の内訳



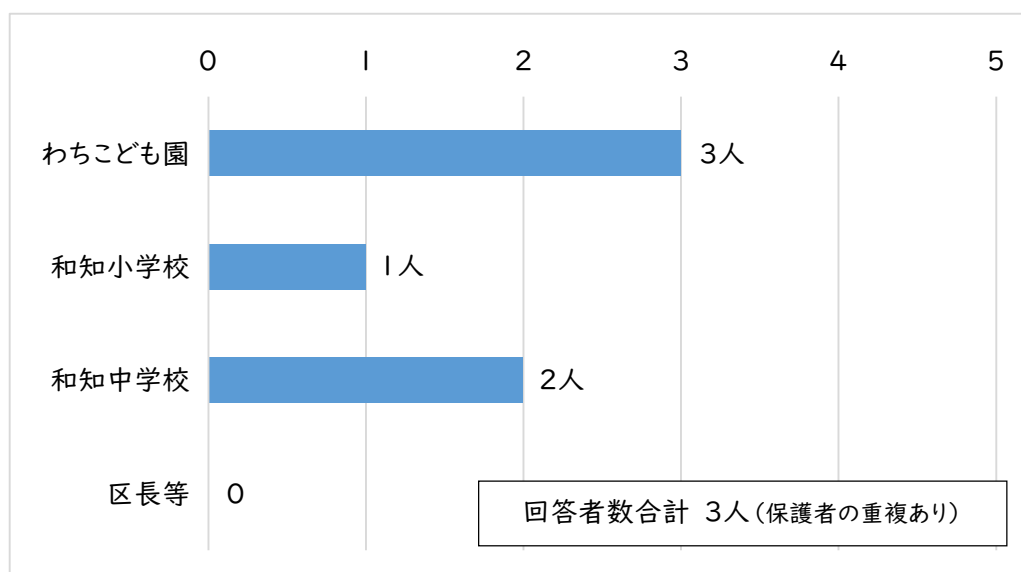
(2) (1)のうち「小中一貫校が望ましい」と回答された方の内訳



(3) (1)のうち「中学校のみ統合が望ましい」と回答された方の内訳



(4) (1)のうち「小学校・中学校とも統合が望ましい」と回答された方の内訳



⑨保護者等説明会における主な意見等について

(1)説明会での意見等

No.	区分	質問・意見・提案等(要旨)
1	区長	小中一貫校となる場合、和知中学校を閉じ、和知小学校に統合されるのか。
2	区長	中学校の統合は丹波（蒲生野中学校）・瑞穂（瑞穂中学校）と統合するのか。
3	区長	現場の先生の意見を聞かせて欲しい。
4	保護者	和知地区での教育は素晴らしいが、子どもを増やすことも大切。教育における移住者対策の考えはどのように考えているのか。
5	こども園・ 中学校保 護者	9年間を通じたカリキュラムについて、どのようなことが教えて欲しい。
6	こども園・ 中学校保 護者	小中一貫教育校は、小学校にはメリットがあるが、中学校にはメリットがないのではないか。
7	こども園・ 中学校保 護者	統合した場合、通学距離の負担が大きく、親の負担も増えるところがあるがどのように増えるのか。通学バスが用意されるのではないのか。
8	こども園・ 中学校保 護者	スケジュール（案）で、R8年度から答申に基づく取組の推進とあるが、R8年度からスタートするのか。
9	こども園・ 中学校保 護者	小中一貫教育校か統合か、方向性は決まっているのか。
10	こども園・ 中学校保 護者	小中一貫教育校の場合、6年生のリーダー性が中学生になると発揮できないと言われたが、それも経験である。いずれ、高校生や社会人になった時も感じることはないのか。
11	小学校保 護者	小学5年生の子どもがおり、中学校の部活動に係るアンケートに回答したが、結果を知らせてもらっていない。方向性はどうか。また、拠点校方式の形が見えてくれば嬉しい。好きなスポーツをあきらめることがないようにしてほしい。
12	区長	第1回目の検討委員会が7月に開催され、半年で答申が示される予定となっているが、早急すぎるのではないか。子どもの思いを大切にしたい。

(2) アンケート回答一覧

No.	区分	質問・意見・提案等(要旨)
1	こども園・小学校保護者	学校がなくなることは、地域コミュニティの消失につながるため、行政と地域が知恵を絞る必要がある。 行政の縦割りを越えた教育移住政策の実施や、「統廃合」ではなく交流やICTの活用による学校間の「ネットワーク化」、「一人ひとりに合わせたオーダーメイド教育」としての「和知だけの教育ブランド」の確立など、全国の中山間地域の希望モデルとなるような取組を提案し、和知地区の学校や地域の魅力化に向け一緒に取り組みたい。
2	こども園・小学校・中学校保護者	子どもの人数が減少する中、施設分離型小中一貫校を目指すのはありがたい。子供の能力や発達にみあった教育体制が選べるような世の中になってほしい。 将来的に、子どもの人数の減少が如実であれば、中学校は3校統合して京丹波町中学校になるのが良い。 また、京丹波町内の和知は小中一貫校、丹波と瑞穂は中学校の統合とし、丹波、瑞穂、和知それぞれが中学校進学時にどちらでも選べる等になってほしいのではないか。今の京丹波町内の子供達の意見をきちんと尊重してあげてほしい。
3	こども園・小学校保護者	それぞれの学校は維持したまま、小・中学校の連携や他校間の交流が当たり前と感じるくらいになってからハード面を整備したら良いのではないかと。 特色ある教育現場の実現には整備より先に実践と時間が必要と思う。 和知小中学校の連携が実を結びつつあると感じているので、焦らず、慌てずじっくりと教育の現場を育てていくことを強くお願いしたい。
4	小学校保護者	近隣でも小規模の学校は小中一貫となってきている。 集団で活動する機会を増やし、中学生を憧れの存在として尊敬する。そんな社会の中で9年間の学校生活を送ることを前向きに捉えている。
5	中学校保護者	和知小中学校一貫が良いと思う。送迎が近い方が良い。環境面においても、和知の小学校や中学校の方が良い。
6	小学校保護者	小中一貫校について、子どもの人数が少ないので一貫校にすることで、中1ギャップ対策にもなり、異年齢との交流により上下関係の礼儀やマナーの学びにも繋がるのではないかと。 一方で、小中一貫校になると子ども達の中で中だるみも起こりやすいのではないかと。制服はどうなるのか、体操服は買いなおすのか等の疑問もある。
7	中学校保護者	京丹波町はそれぞれの地域の特色があるので、小中一貫校が良いのではないかと。伝統文化の活動も続けてほしい。 通学距離が長くなるのは、親子ともに負担がでてくると思う。
8	小学校保護者	小中一貫校案は現実的で妥当な判断だと感じる。タイミングとしても妥当なタイミングだと思う。 いかに成功させるか、どんな成功事例があるかをもっと語っていただく機会をお願いしたい。 子供達が楽しみにされる様に親である僕たちがワクワクできれば、まずは成功かと思うので期待している。
9	中学校保護者	和知だけのことを考えると小中一貫が通学の負担も少なく良いと思う。しかし、いずれは町全体で考えて行った方がいいのではないかと。 山県市の構想を京丹波町に当てはめることで、一貫校にした場合と統合した場合のそれぞれのデメリットが薄らぐのではないかと。山県市と同じ方法は難しいと思うが、京丹波町に合った形のものと考えられないだろうか。
10	小学校保護者	小中一貫校にすること自体は反対しないが、他の中学校との部活動や合同学習等の機会を増やすことが前提の賛成である。小学校も他の小学校との交流の機会を増やして欲しい。 部活動拠点方式は不十分である。子ども達がやりたいスポーツを諦めることがないようにして欲しい。平日も活動できるようにバスや移動タクシーなど町がもっとサポートするべきである。 また、仮に和知地区が小中一貫校になった後に、京丹波町全体の中学校を統合する場合、和知は小統合の対象外になってしまうのか？その時は、小中一貫校をまた切り離し、和知地区の中学生は統合校に加入できるのか？この点も予め検討しておくべきではないかと。
11	中学校保護者	様々な意見やメリット・デメリットが理解できた。 小中一貫は 普段はいいが、色々な行事 文化祭・体育祭などは別々に他の中学校・小学校と交流できないかと。
12	小学校・中学校保護者	中学校統合は、通学時間や保護者の負担を考えた場合、現時点では現実的ではなく、小中連携の取組や成果が損なわれてしまうのではないかと。 地域から中学校が無くなってしまふこと自体が、地域の活性化や存続にマイナス要因になるのではないかと。 まずは、町内3中学校の連携の機会を増やし、授業や部活動、行事等でも交流を図ることで、生徒たちにとって良い刺激になり、課題の解消になるのではないかと。 これを機に、スクールバスの配備を検討いただけないかと。スクールバスを配備することで、小中学校の連携や、町内3中学校の連携がよりスムーズに行われるのではないかと。
13	中学校保護者	どのパターンも、多少のメリット、デメリットがあるが、地域の伝統文化などは継承してほしい気持ちもあり、他校との統合には賛成はできない。 和知中と和知小を一貫校にすることは賛成である。
14	こども園・小学校保護者	京丹波町の人口が減少する中、統合した所で一時的な対策でしかないと感じる。和知のいい所がなくなるのは悲しい。 働く場所が増え、人が増え、生活しやすくなる京丹波町になれば良い。
15	こども園・小学校保護者	説明会で何を言いたかったのかわからなかった。中間報告会として、受け取った。 検討委員会が考えるメリット、デメリットは保護者とは少し温度差を感じる。抜本的な、解決改善にはならない様思う。 小中合同の運動会では、中学生が小学生のお世話をする為に居る様にしか感じず、自主放送番組の放送で、他の中学校の体育祭を見た際に、これが中学校の体育祭と感じた。 小中一貫校になることに関しては仕方なく、全く反対する気はないが、他の小中学校との交流の際、小規模校の児童が肩身の狭い思いをしないように、他校へ出向くばかりではなく、相互に行き来してほしい。

No.	区分	質問・意見・提案等(要旨)
16	小学校保護者	どの方法が良いかわからないが、少ない人数でも、価値観は人それぞれあり、子供の心に一生残るものだと思う。少ない人数だからこそ、私は、和知に魅力を感じた。 いつまでも和知という温かい地区で、子供たちは育って欲しい。子供たちへその愛情が伝わりやすい、この和知をいつまでも大切にしたい。
17	中学校保護者	小学校での休み時間の過ごし方と、中学校での過ごし方は異なるため、環境の変化にとまどう子どももいる。 小中一貫校になることで、中学生の休み時間の使い方を見ることができると、心の準備につながるのではないかと。
18	小学校保護者	人数が減少しており、小中一貫校になることも致し方ない。 出産の援助金や移住者に力を入れて欲しい。
19	小学校保護者	たとえ町内小学校を統合しても、数年後には子供の数がクラスにも満たない状況となることに不安を感じる。 小中一貫校で良くなる部分はまだなかなか見えてこないように思うが、やると決めたなら、全員が良かったと思えるような工夫を最大限してほしい。 また、地域内での子どもの交流ができなくなっているため、中学生との交流ができるのは良いと思う。
20	中学校保護者	長期的に見ると、小中一貫化、町内の学校の統合も視野にしていかなければいけない。 他校との交流を持つ機会を増やしなが、学習の機会が増えていくことでスムーズな移行にも繋がるのではないかと。 通学手段は、保護者の負担軽減や安心に繋がるようにしてもらいたい。
21	区長等	和知地区に学校がなくなることは、若い移住者の誘致推進についてもマイナスになり、急激に人口が減ってしまう恐れがある。 出来れば、小中一貫校を進めていただきたい。 デメリットの9年間同じメンバーであっても、いずれ高校・大学では、成長した心で対応出来るかと考える。 もしも無理であれば、小・中学校とも統合しても、和知地区にどちらかの統合校舎を作ってほしい。
22	小学校保護者	小中一貫校を採用した場合、小学生にとっては良いが、中学生にとっては学習面などで、心配な部分もあるのではないかと。 和知だからその教育が、一貫校で出来るのはメリットだと思う。 和知中学校を統合した場合、通学距離の負担は大きく、送迎出来ない保護者もゼロではなく心配な面が大きい。 色々な子供たちと交流が出来るという点はとても良い。
23	小学校保護者	中学校の統合を望む。小中一貫は問題の先延ばしであり、中学生に対するメリットは感じられない。和知に中学校があることはさほど重要とは思わない。中学生は、より広い世界を知り、慣れない環境でも、新しい人間関係を築くことは経験すべきである。部活で好きなスポーツや文化活動を選んで取り組めることは貴重である。 通学の負担も、町内であれば中学生にとっては大した距離ではない。 中学教員が小学校で授業をするといった取組は、統合してもできるのではないかと。京丹波町全体で取り組むことで、町の教育環境の魅力向上や子育て世帯の移住促進にもつながると思う。「議論を急ぎすぎている」と意見があったが、時間はない。早急に変えていかなければならない。
24	小学校保護者	小中一貫教育校にした場合、中学生のメリットがあまり感じられない。 高校進学のことを考えた場合、中学校を統合し、生活面や勉強面において変化や刺激があった方が良くと思う。
25	こども園・中学校保護者	具体的なことがわかりにくかった。小中の校長先生や他の先生の現場の声が聞きたかった。 小中それぞれ他校に統合に賛成である。 子供は減っていく一方で、いずれ統合する必要があるが、小中一貫は、中学生のメリットが感じられない。同じメンバーで保育園から中学まで一緒に、関係や友達のパワーバランスも決まっている。クラス替え、スポーツや体育祭での団結など、大人数で得られるメリットが大きい。地域との関わりや、活性化よりも子供の将来を考え、社会や世界に出ていけるようにしてほしい。 部活動の拠点校方式も、週末だけ参加することで、チームに馴染めるのか、技術的にも向上するのか、中途半端に競技をして試合に出られるのかも疑問である。地域を守ることより、子供の将来を考えてほしい。
26	こども園・中学校保護者	小中一貫校のメリットで示された内容はメリットと思えない。9年間のカリキュラムのメリットも良く分からない。 小学校の6年間、中学校の3年間は別物で捉える事で、小学校低、中、高学年の自覚と中学校に進学する喜びと責任感が芽生えると思う。 小さなコミュニティの中では社会性や人間関係の構築には限界があると思うので、京丹波町内の全ての小学校、中学校が統合するのが理想的だと思う。 送迎で保護者の負担が大きくなり京丹波町が交通手段を整えるべきである。
27	こども園・小学校保護者	小中一貫にした場合、小学校から中学校へ上がって同じメンバー、同じ環境という現状との違いが分からない。和知の中では数少ない環境の変化の体験をさらに潰すようなデメリットしか見えないが、全保護者にわかるように改めて説明してほしい。 最近の運動会は、小中一貫を行う前提で進められていると思うが、中身はただ一緒にやっているだけで、以前に比べると内容も薄く、退化していると思う。 今日も肯定的な意見はなかったが、それでも小中一貫を推進していくのか？ 小中一貫よりも、子供にとっては他の学校との統合の方がかなりメリットがあると思う。それを薦めない理由を明確に答えてほしい。
28	こども園・小学校保護者	人口減少、児童の減少による学校のあり方を考えた対策が、小中連携、地域文化との連携に着地しているのは少々疑念が湧く。 人口減少による課題、児童の減少による課題は、地域の衰退ではなく、子供への教育内容が多人数の場合の教育と比べて、どう異なるか争点ではないかと。子ども達の教育がどう充実できるか、を大きな論点にしてほしい。 急いで進めている理由がわからない。町内全域で考えるべきである。 具体的には、もう一度、意見交換会の機会を作ってほしい。 未来の子どもたちのため、今後の和知に子供を増やすため、何卒丁寧な対応をお願いしたい。
29	小学校保護者	保護者目線、教員目線、子供達目線の、メリットとデメリットを、しっかりと寄せたい。
30	区長等	中学生のメリットが今一つ思い浮かばなかった。勉強面でのメリットを知りたい。 町内3中学合同も選択肢にするのであれば、和知地区だけでなく、瑞穂、丹波地区との合同の話合いが必要ではないかと。

No.	区分	質問・意見・提案等（要旨）
31	こども園・ 小学校保護者	資料を読み上げてだけの説明会で何がしたいのかわからなかった。意見に対するの答えも検討しますばかりでなにも答えになってないと思った。子供の意見も聞かずに進めていっているわけではないと言っていたがそれは嘘だと思う。 中学校の部活について、拠点校になったと決定したのも知らなかった。中学校の入学説明会で話すと言われても遅すぎる。 教育委員会が話し合い、実行していくのは簡単だが、それを目の当たりにするのは地域、保護者、子供達であり、その目線でどう負担になるのか全然考えていないと思う。 和知の小学校が統合した件についても、経過をしらべておくべきではないか。 教育委員会の人達が勝手に話をすすめて決定事項を話してるだけで、地域、保護者、子供達と意見交換が全くできていない。
32	小学校保護者	運動会でも、小中合同で行うことで課題等が浮かんできたため、期間限定で試行的な取組が出来れば良いのではないかと。
33	小学校保護者	移住者を増やして行かないと言う意見について、子供が増えることは嬉しいが、今いる子供たちのことを第一に考えてほしい。 送迎の件で親の負担がどのくらいかということが気になる。
34	こども園・ 小学校保護者	それぞれ問題、課題が山積みであり、メリット、デメリットもあると思う。 小中一貫校も良いが、こども園も入れた方が良いのではないかと こども園、小学校一貫校にして、中学生は町内全てで一個の中学生にした方が良いのではないかと。
35	こども園・ 小学校保護者	京丹波町(丹波、瑞穂、和知)の小・中学校全体で方向性を考えるべきではないかと。 例えば、生徒数が少ないのであれば、下山小学校と和知小学校を合わせるとかも検討出来ないかと。
36	小学校保護者	児童アンケートや授業の一環で、子供達側からも新しいアイデアを出してもらったりなど、共に小中学校のあり方を考える必要があるのではないかと。
37	小学校保護者	特になし。

⑩検討委員会の最終の評価について

5回にわたる検討委員会及び保護者等説明会を開催した結果、検討委員会における最終の評価は次のとおりでした。

(1) アンケートの回答結果等を踏まえた評価について

- ・11月27日から12月7日を回答期間としたアンケート結果では、回答者37人中、小中一貫教育校にすることが望ましいとする意見が59.5%の22人であった。
- ・上記のアンケート結果や第4回までの検討結果を踏まえ、小中一貫教育校への移行が望ましいのではないか。
- ・ただし、小中一貫教育校へ移行する場合も、中学校のみ統合することが望ましいとする意見や、小学校・中学校とも統合することが望ましいとする意見にある学校の小規模化に伴う人間関係の固定化、多様な学びや活動の制約などのデメリットの解消・低減を図る必要がある。

(2) 小中一貫教育校へ移行した場合の交流協議(ワークショップ)について

- 上記(1)を踏まえ、小中一貫教育校に移行した場合について次のとおり議論を深めた。
- ・小中一貫教育校へ移行する場合、これまでの和知小学校と和知中学校の小中連携推進事業との違いは何なのか、どのような学びが可能となるかなどを明確に示す必要がある。
- ・小中一貫教育校への移行による和知ならではの特色ある学びや取組の創出と深化、見える化ができないか。

【特色ある学びや取組として提案された主な意見】

- ・英語力の向上に特化した授業の充実
- ・プログラミングや情報活用に関する内容の充実
- ・和知太鼓や和知人形浄瑠璃などの伝統文化の学習のさらなる深化
- ・カヌーを活用した継続的な学び
- ・小学校から中学校への継続したコミュニティ・スクールの取組
- ・連携教育の充実のための移動手段の確保
- ・小規模校ならではのきめ細やかさを生かした丁寧な教育の見える化

(3) 検討委員会の最終の評価について

- ・アンケート結果に示された期待と懸念の両面を真摯に受け止め、検討委員会においてさらに議論を深めた。とりわけ、中学校における学びのあり方や人間関係の固定化といった課題に対しても、その克服に向けて、他校との合同学習の機会の確保等の必要性について具体的な議論を重ねた。また、単にこれまでの教育を維持するだけでなく、9年間を見

通した創造的な教育課程の編成こそが、和知の子供たちの未来を拓くとの結論に至った。以上の検討結果を踏まえ、小中一貫教育校への移行を検討委員会の総意とし、答申することを確認した。

●小中一貫教育校へ移行した場合の交流協議(ワークショップ)における主な意見

グループ	主な意見
Aグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・現実的に今あるもので何かできないかで考えると、移動手段として、スクールバスと運転手で環境が改善されないか。 ・9年間の学びとして、企業のプログラムを取り入れ、1年間を通じた外国語学習ができないか。 ・伝統文化に関する小学校での基礎的な学びを中学校での探究型学習に取り入れられないか。 ・カヌーを活用した継続的な学びができないか。 ・小規模校の課題でいうと、もちろん人数が多くないとできないこともあると思うが、小さい規模だからこそできることやメリットもたくさんある。 ・PTAの組織が1つになれば負担が軽くなるが、そもそもPTAの負担って何だろうという話になった。本来、学校に集まって子どもたちのためにと前向きにやっておられる今の現状があるので、それを大事にしていけばいい。 ・学校と地域のコミュニティスクール的な活動も中学校ではまだまだこれからというところもあるので、一緒になれば小学校でやっているいろいろな活動を中学校にも広めていける。 ・保護者同士の集まって繋がっていくという良さもあると思うので、9年間ってなれば継続していけると思う。
Bグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業式、入学式は区切りとしてやってほしい。 ・今までも連携教育を進めていただいているので、施設分離型になったとしてももっと踏み込んで事業が進められる。 ・地域密着型の学習というのは地域柄やりやすいと思うが、大きな変化ではないため、ブラッシュアップしていく必要がある。 ・プログラミングや情報活用に関する内容の充実 ・小学校のころから、英検を目指して小中学校連携して英語に取り組むとか、プログラミングに力を入れるなどの連携したカリキュラムを組んでいける。 ・スクールバスが導入できれば小学校、中学校の行き来だけでなく、他校との交流がもっとできるようになる。 ・和知という小規模校だからこそ丁寧な教育がされていると感じる。大規模校だとできないこともあると思う。今の学習の成果が見える化できればいいと思う。